6-26　実践協力校における実践
事例㉖　伊勢原市立比々多小学校（５年・国語）
「よりよい学校生活のために」「『子ども未来科』で何をする」

Ⅰ　学校全体における取組

実践協力校では、学校に加え、地区としての教育目標「比々多プライド（比々多地区を誇りに思い、よりよくしようとするひびた人）～あいを育む地域～」のもと、家庭・地域と連携・協働しながら教育活動を行っている。また、カリキュラム・マネジメントの視点から、各教科等と総合的な学習の時間の学びをつなげながら、教科横断的な学習に取り組んでいる。

５年生では、社会科で学習した農業に関連して、地域の農家や神社の方（比々多小学校サポーターズクラブ）の協力を得て、総合的な学習の時間に米づくりや野菜づくりの体験を行った。体験学習の後、子どもたちは、国語科の単元「よりよい学校生活のために」で、お世話になった地域の方に感謝の気持ちを伝えるためにできることを話し合い、地域の方を招いた「感謝の会」を開くことにした。

また、その後の単元「『子ども未来科』で何をする」では、総合的な学習の時間で探究するテーマを決めるため、子どもたち一人ひとりが関心をもったテーマや学習計画についてスピーチで学級に伝える取組を行った。


令和6年度　比々多小学校の教育　［あいを育む学校 愛,I(自分),藍］

［学習指導要領　よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る］

比々多地区教育目標

比々多プライド（比々多地区を誇りに思い、よりよくしようとする ひびた人）
～あいを育む地域～

家庭 ― えがおで ちいきをつなぐ ひびたっ子 ― 地域

学校

比々多小教育目標

○比々多プライドと自己肯定感をもち、思いやりのある子
○自他の健康や安全に気をつけ、命を大切にし、元気に活動する子
○よく聴き、よく考え、正しく判断して活動する子

めざす子ども像

こころ元気
○自他のよさを知り、前向きに生きようとする子
○周囲の人や環境に感謝の気持ちをもって生活する子
・すすんで気持ちのよいあいさつをする
・やさしい聴き方やあたたかな話し方を心がける
・他学年の子とも仲よくする
・心を込めてそうじに取り組む
・みんなで使う物や場所を大切にする

からだ元気
○自他の健康や安全に関心をもち、落ち着いて活動する子
・規則正しい生活をする（早寝・早起き・朝ご飯）
・給食を好き嫌いなく食べ、外で元気よく遊ぶ
・廊下や階段を落ち着いて歩く
・交通安全に気をつける

あたま元気
○人の話に耳を傾け、よく考え、正しく判断して、生き生きと表現する子
・場所や状況に合った言葉や態度を心がける
・話をしっかりと聴き、よく考えて学習に取り組む
・毎日、自分に合った家庭学習をする

めざす学校像

集団づくり
○認め合うあたたかな仲間づくり
・あいさつ、児童集会、異学年交流
○学校づくりへの子どもの参画
・子どもを主体とした取り組み（委員会、実行委員等）

児童のスローガン　(R5)
200年へ！ あかるいあいさつ
伝統をつくってつないで150 比々多っ子

授業づくり
○日常的・継続的に取り組むよりよい授業づくり
・自主的な研修会の実施と参加
・積極的な授業公開、参観
・教科担当制を生かした教材研究・評価の充実
○一人ひとりの学習ニーズに応じた指導、授業のUD化
○指導法、指導体制の工夫
○学習指導要領への対応
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
・プログラミング学習
○家庭における学習習慣の定着
○読書習慣の定着
・読書タイム、学級文庫
・読み聞かせボランティア
○ＩＣＴを活用した教育

安心できる環境づくり
○インクルーシブな教育体制
・支援級と通常級の交流、ホットルーム、国際教室の推進
○児童支援と指導の一体化
・個別支援、ケース会議
・ホットルームティーチャー、学生ボランティア（産能大、東海大）の活用
・関係機関との積極的な連携
SC、SSW、民生児童委員
子ども家庭相談課、児童相談所
○早期発見・早期対応
・いじめ防止対策委員会、生活アンケート、ホッとデーの実施
○校内サポート体制の活用と充実
・サポーターズクラブ
○放課後の学習支援と居場所づくり
・未来っ子クラブ、夏休み自習教室
○落ち着きのある校内環境
・そうじ、掲示物、放送

地域の中の学校づくり
○地域との連携・協働
・コミュニティースクールの活用
・教職員の地域行事への参加
○学校評価の実施、活用
○ＰＴＡとの連携・協力
○幼保小中の交流・連携
○地域における子どもの活躍の場

赤字は、児童と共に取り組む3つの重点目標です。

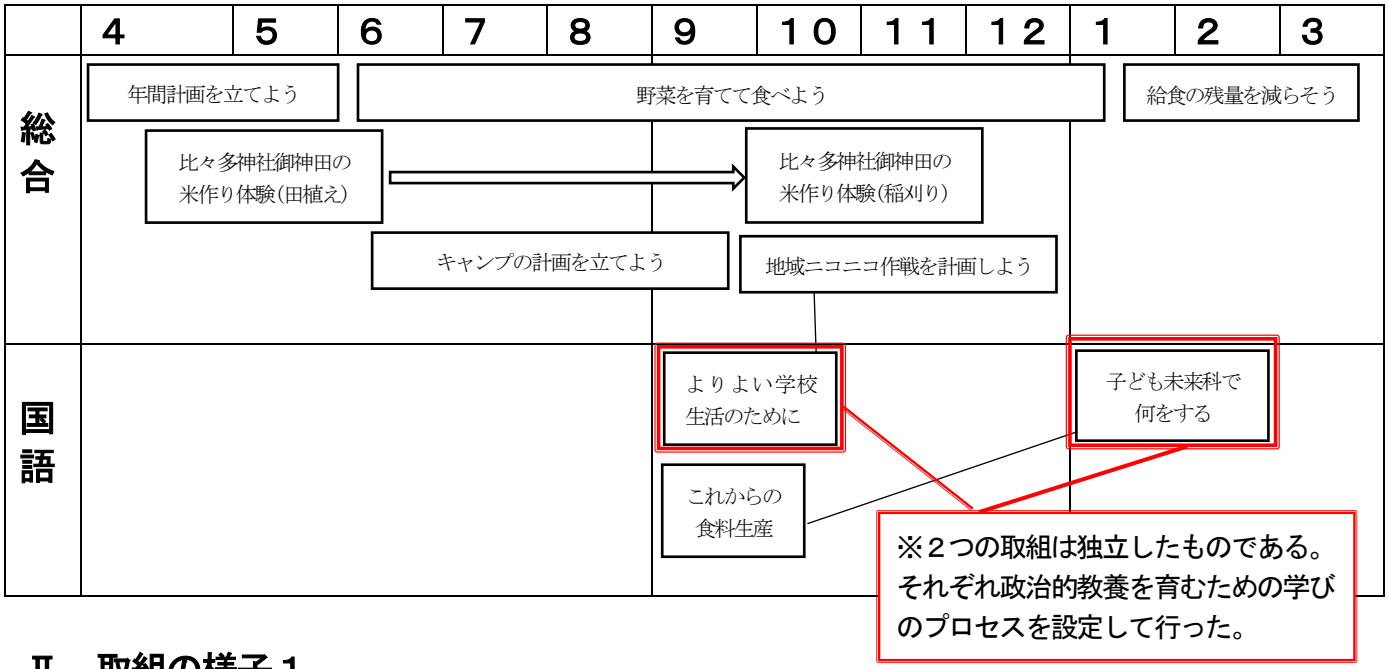
地域の中の学校づくり
○地域との連携・協働
・コミュニティースクールの活用
・教職員の地域行事への参加
○学校評価の実施、活用
○ＰＴＡとの連携・協力
○幼保小中の交流・連携
○地域における子どもの活躍の場







＜総合的な学習の時間と国語科との関連＞



Ⅱ　取組の様子１

①　単元１　「よりよい学校生活のために」（国語科）

１．単元名　「互いの立場を明確にして、話し合おう　『よりよい学校生活のために』」

２．単元の目標

・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

・思考にかかわる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。

ポイントになる
主な学びのプロセス

→

・課題について考える
・他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

３．指導計画（６時間扱い）

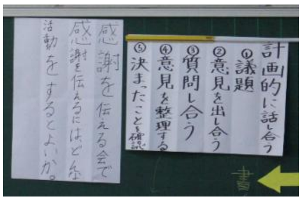
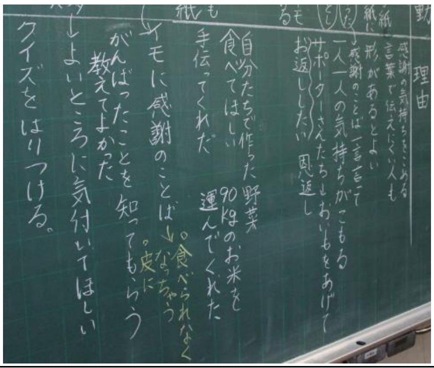
	ねらい（◇）・おもな学習内容（◆）
1	◇立場を明確にして話し合うという学習目標を捉え、学習計画を立てることができる。 ◆学級、学校、地域の中でよりよくしたいと思うことを出し合い、単元の見通しをもつ。
2	◇日常生活を振り返り、話し合う議題を決めることができる。 ◆話し合う議題を決める。
3	◇議題について考えを書き出し、分類したり関係付けたりして自分の意見をまとめることができる。 ◆議題についての解決方法、理由や根拠についての自分の考えを書き出し、整理する。
4	◇立場を明確にした話合いの仕方や気を付けることを理解することができる。 ◆立場を明確にした話合いの仕方や気を付けることを理解し、役割や進め方を決める。
5 本時	◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。 ◆互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする。
6	◇立場を明確にした話合いの仕方や考えの整理の仕方について学習を振り返ることができる。 ◆単元を振り返り、立場を明確にした話し合いの仕方や考えの整理の仕方についてまとめる。

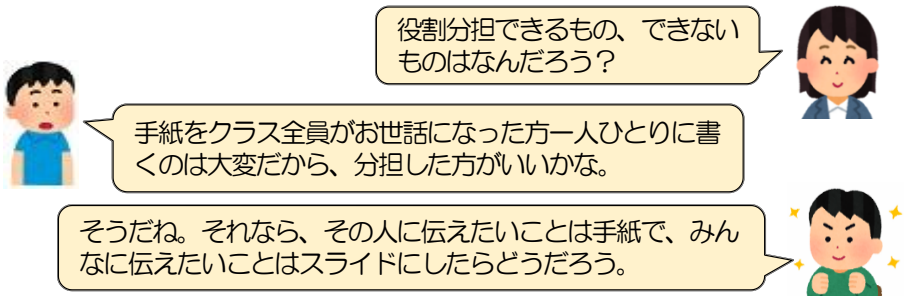
②　本時の様子

○　本時の目標

「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。」

○　本時の展開

過程	活動の流れ	ポイントになる 学びのプロセス
導入	○前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 立場を明確にして、計画にそって話し合おう。  お世話になった地域の方に感謝を伝えるために、どんな活動をするとよいか話し合おう  **議題「お世話になった方に感謝を伝え、地域の方や、学校のみんなのいこいの場を作る計画を立てよう。」**  ○○さんには田植えや稲刈りの仕方を教えてもらったね。 ◆◆さんには、畑づくりのときにお世話になったね。 	**<u>課題について考える</u>** お世話になっている地域の方や、高学年として学校のみんなに自分達ができることについて具体的に考えようとする
展開 ① 展開 ②	・個人で考え、ノートに書きだす。 ・各自が考えた意見を全体で共有する。  感謝の気持ちをこめて、校歌を歌いたい！ 感謝の言葉をその場でうまく言えない人もいるかもしれないから、手紙を書いたらどうかな？   お世話になっている方々に、畑で自分たちが作ったさつまいもや野菜を食べてもらいたい！ 教えてもらったことを生かして自分たちがどんなことをやったか、スライドで知らせるのはどう？   比々多地区のよいところを知ってもらうためのクイズをしたいな！ ・出てきた意見を整理する。 ・収穫したさつまいもを使う ・紙に書いて渡すもの ・歌やことばに関係するもの ・画面に映すもの  班で感謝を伝える方法を役割分担しよう。 	**ポイント1** **<u>他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する</u>** お世話になっている地域の方に自分達ができることについて具体的に考えようとする 目指す子ども の姿 話し合いを通して、「相手に感謝が伝わるため」に自分達にできることを考えようとしている姿。

まとめ		

ポイント1

活動の目的を意識しながら意見の再構築をすすめる

子どもたちは「自分の考えを述べる」→「活動を行う目的やそう考えた理由を説明する」という発言のルールのもとで話し合い、仲間の意見を聞くことで、自分の考えを少しずつ再構築しようとする姿が見られました。

またその際は、授業者が必要に応じて声かけを行うことで、考えが変わった子どもも取組の大きな目的である「お世話になった方に感謝の気持ちを伝えること」に立ち戻りながら、話し合いを進めることが大切です。

③　研究協議

1．研究協議のテーマ

「子どもたちは他者の考えを聞き、自分の考えを再構築できていたか。また、そのためにはどのような手立てができるか。」

2．成果と課題、参加者からの意見

成果

- 話し合いの進行役を子どもが行ったことで、子どもたちが主体的に話し合いに参加することができた。
- 授業者や子ども同士が一人ひとりの個性を受けとめながら、話し合いを進めていた。学級全体に思ったことを素直に発言できる雰囲気（安心感）があったため、子どもたちが多くの意見を言うことができた。
- 友だちの意見を踏まえて自分の考えを変えようとする発言があり、再構築する場面が見られた。

課題、意見

- 意見が多く出ていたが、意見の掘り下げが浅かったため、一人ひとりの意見をより丁寧に扱い、理由を深掘りする等することで、目標に近づけるのではないかと考えられる。
- 他者の意見の受け取り方（自分の意見と比べどこが異なるか等）について、投げかけ方を工夫することで、子どもが自分の考えを再構築することにつながると考えられる。
- 意見を再構築するために、子どもたちの意見をまとめたものを次時に提示するなどして、再構築のための時間を確保することが必要と考える。

④　事後の取組

「感謝を伝える会」当日の様子

本時の後の授業で引き続き話し合った結果、お世話になった地域の「比々多小学校サポーターズクラブ」の方々を学校に招いて「感謝を伝える会」を行うことになった。

会の当日には、子どもたちが収穫したさつまいもを使って作ったおやつを食べてもらったり、住んでいる地域のよいところに関するクイズ、お世話になったことのエピソードをスライドで映したりして、地域の方と交流しながら感謝の気持ちを伝えた。

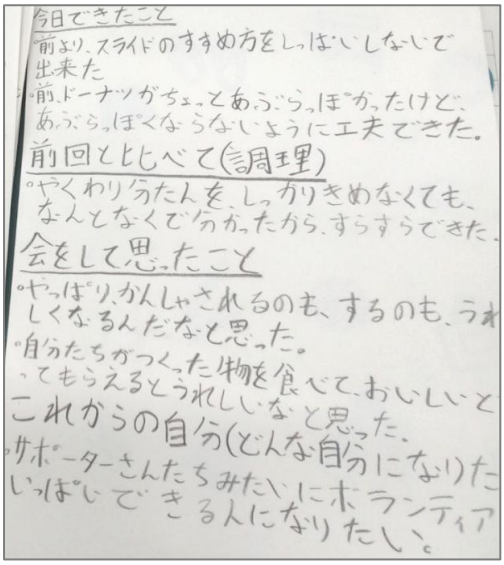




活動を終えた子どもの振り返り

○　感謝を伝える会をしてすごくいい気持ちになりました。なぜなら、あちらの方たちは、ふだんボランティアをやっていて、お金をもらわずに活動しているので、ちゃんと感謝をつたえられたからです。ぼくは感謝を伝えられる人になりたいです。

○　感謝されるのもするのも、うれしくなるんだなと思った。自分たちが作った物をおいしいと言ってもらえるとうれしいなと思った。サポーターさんたちみたいにボランティアがいっぱいできる人になりたい。



Ⅲ　取組の様子２

①　単元２　「『子ども未来科』で何をする」（国語科）

１．単元名　　事実と感想、意見を区別して、説得力のある提案をしよう　「『子ども未来科』で何をする」

※「『子ども未来科』で何をする」とは、教科書に掲載された題材の一つであり、架空の教科である「子ども未来科」があったらどのようなことを学びたいかをテーマにスピーチを行う単元である。実践協力校では、この単元で行ったスピーチをもとに、総合的な学習の時間で取り組むテーマを考える計画を立てた。

２．単元の目標

・話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解することができる。

・話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。

・スピーチ活動を通して身に付いた力を確かめ、これからの活動に生かしたいことを考えることができる。

ポイントになる主な学びのプロセス　→　**・課題について考える**　**・主体的に社会に参画する**

３．指導計画（８時間扱い）

	ねらい（◇）・おもな学習内容（◆）
1	◇単元の見通しをもち、学習計画を立てようとしている。 ◆スピーチで提案するテーマを考える。
2・3	◇提案するテーマを決め、適切に情報を収集することができる。 ◆提案に必要な情報を集めたり、分類・整理したりして、提案に必要な情報を選ぶ。
4	◇スピーチの内容や構成を考えることができる。 ◆スピーチメモと提案する資料を作る。
5	◇自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。 ◆スピーチメモをもとに練習し、よりよい伝え方を考えることができる。
6～8本時7時	◇スピーチ活動を通して身に付いた力を確かめ、これからの活動に生かしたいことを考えようとしている。 ◆スピーチを聞き合い、感想を伝え合う。 ＜スピーチのテーマ＞ ・ジェンダー　・感染症　・海洋汚染　・防災　・食料生産　・戦争

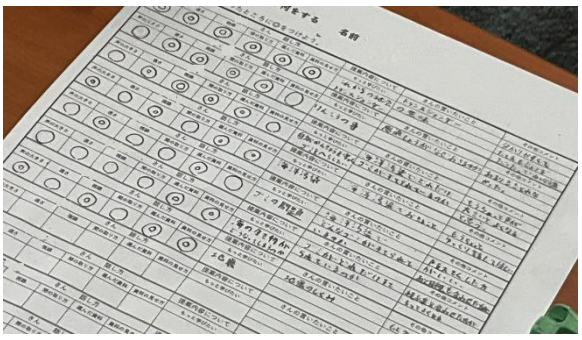
② 本時の様子

○ 本時の目標

スピーチを聞き合い、感想を伝え合うことができる。

○ 本時の展開

<table>
<tr><th>過程</th><th>活動の流れ</th><th>ポイントになる
学びのプロセス</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>※本時がスピーチ発表の２時間目のため、スピーチをするときの視点を確認する。
 
【話し方】
・声の大きさ
・話す速さ
・視線
・間の取り方
【提案の内容】
・選んだ資料
・資料の見せ方
・もっと学びたいと思ったところ
を意識しましょう</td><td><u>課題について考える</u>
よりよい未来のために、社会の課題を見つけ、課題について考えようとする。</td></tr>
<tr><td>展開</td><td>学びたいことについてスピーチをして感想を伝え合おう

＜スピーチ発表者の留意点＞
※発表者はスピーチに、テーマに関連した自らの体験を盛り込む。
※提案するテーマについて、「子ども未来科」でどのように学んでいくか、学習計画を提案する。
 
みなさんはトランスジェンダーという言葉を知ってますか？私はジェンダーレスについて学習することを提案します。
感染症について学び、健康な未来について考えることを提案します。具体的には、〇時間目に…を行い、〇時間目には…。
 
 
海岸でごみ拾いをした体験から、私は海洋汚染について学習することを提案します。
防災について学び、地震が起きたときにどうするか、みんなで考えたいと思います。
 
＜聞き手の子ども＞
・スピーチを聞いて、よかった点、もっと学びたいと思ったことを感想用紙に記入する。
・スピーチ終了後、よかった点や学びたいと思ったことを発表する。
  </td><td>ポイント2
<u>主体的に社会に参画する</u>
課題を解決するために「子ども未来科」の授業で、みんなで学びたいことを考え、学習計画を含めて提案する。

目指す子どもの姿
社会的な課題を自分のこととしてとらえ、提案したことや「子ども未来科」で学習したことを今後の生活に生かそうとする姿。</td></tr>
<tr><td>まとめ</td><td>・本日の発表者のスピーチについて、よかった点、提案を聞いて「子ども未来科」で学習したいと考えたことやその理由をワークシートにまとめる。</td><td></td></tr>
</table>

主体的に社会に参画する意識を育むために　**ポイント2**

スピーチ原稿の作成にあたり、授業者は子どもたちに、「自分の身近な体験」を盛り込むよう指導しました。テーマと実体験をつなげることで、子どもたちは実際の社会的課題により関心を持ち、その解決にむけて主体的に学ぶことにつながります。また、子どもたちは提案内容を分かりやすく伝えるため、言葉だけでなく根拠となる資料を示しました。実際の社会的課題に関する情報を収集したり、提案の根拠となる資料を提示することも、社会に参画する意識を育むことにつながるといえます。

③　研究協議

1．研究協議のテーマ

「児童はそれぞれの活動を通して、社会の課題を自分のこととして考えようとすることができていたか。」

2．成果と課題、参加者からの意見

成果

- スピーチ発表者が、それぞれ自分の体験をスピーチに入れて発表できていたため、社会の課題を自分のこととして捉えられていたと考えられる。
- 発表者が聞いている子どもに「皆さんはどうですか」と投げかけることで、聞く側がテーマについて自分のこととして考えるきっかけを生み出していたと考えられる。
- 学びたいテーマについて、発表者自身が考えた学習計画を含めて発表したことや、この後実際に学んでいくことについて子どもたちが具体的なイメージを持とうとする姿がみられた。

課題、意見

- 国語科としての目標の実現と、政治的教養を育む教育として大切にする学びのプロセスのバランスを求めていくために、学習活動における子どもの具体的な姿をイメージすることが必要である。
- 聞いている子どもが発表内容を自分の身の回りの体験と結びつけるために、スピーチの後に小グループで共有する時間があると、子どもが社会的な事象を自分のこととして考えることにつながるのではないかと考えられる。
- 実際にクラスで探究的な学びを進めるにあたり、どのテーマについて学ぶかについて、自分が調べたテーマが選ばれなかった場合でも子ども同士が納得できるよう、時間をかけてルールを決めることが必要である。

④　事後の取組

「子ども未来科」で学習したいこと

スピーチ発表が終わったのち、子どもたちは学級全体で学習したいテーマを話し合った。発表者の準備した資料の説得力や、学校のそばを流れる川が海につながっていること、生き物への影響があるという点から、子どもたちは「海洋汚染を防ぐために」というテーマで探究することに決めた。また、スピーチで提案した子どもたちの計画を基に、実際の学習計画を再構築し、海洋汚染の現状を調べたり、学校近くの川にごみの調査や生き物の調査を行ったりすることに決めた。

